

2. 糖尿病患者における血糖値の改善率

1) 対象データ	入院 様式 1 検体検査結果データ (HbA1c 検査)	
2) 計測期間等	【分母】平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日入院かつ平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者 【分子】平成 23 年 2 月 1 日～9 月 30 日	
3) 計測対象	分子	分母のうち、分母の入院初回あるいは入院前の直近の HbA1c に比較して、0.5%以上低下している患者数
	分母	40 歳以上で、傷病名が『糖尿病 (E10～E14)』で、かつ 40 歳以上 (入院時年齢) の退院患者数

分母の算出方法

以下の基準を全て満たすものを分母とする。

- ① 様式 1 の傷病名のいずれかに糖尿病 (E10～E14) のもの。
- ② 様式 1 の入院年月日が平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日の期間のもの。
- ③ 様式 1 の生年月日、入院年月日より入院時の年齢を求め 40 歳以上のもの。
- ④ 様式 1 の入院年月日±15 日の期間で HbA1c 検査を行っていて、かつ HbA1C の値が 7.5% 以上のもの (ただし、遡りは可能な日まで)。*ただし、この期間は入院日に一番近いものとし、また入院前後の期間が同日の場合は、外来 (つまり「-」) を優先する。
- ⑤ 平成 23 年 2 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日の期間中に HbA1c 検査を行ったもの。

分子の算出方法

- ① 様式 1 の入院年月日±15 日の期間で HbA1c 検査値を抽出する。
期間中、複数日 HbA1c 検査を行っていた場合は、入院日の初回、あるいは入院時に検査を行っていない場合には入院前の直近とする。
- ② 平成 23 年 2 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日の期間で、分母の退院日を起点として、6 か月後±30 日に該当し、複数該当する場合には、その中で一番最後の日に該当する HbA1c 検査値を抽出する。
- ③ ①の検査値と②の検査値が 0.5%以上低下しているものを分子とする。
① 検査値－②検査値 \geq 0.5 のもの

*HbA1c 値

◆検体検査結果データより

- ・検査名称欄が『H b A 1 c』『ヘモグロビン A1c (HbA1c)』『HbA1c』のもの
- ・結果欄に数値が入っているもの
- ・日付は『検体採取日』を採用 (全件『文書日付』と同一)

3. ヘリコバクターピロリの除菌療法の効果

1) 対象データ	外来 レセプトデータ (RE レコード, SY レコード, SI レコード) 処方, 注射データ	
2) 計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日外来患者	
3) 計測対象	分子	詳細は算出方法参照
	分母	詳細は算出方法参照
4) 薬剤マスタ	プロトンポンプ阻害薬 アモキシリン クラリス フラジール	

分母の算出方法

- ① 平成 22 年 10 月～平成 23 年 4 月の診療月に「D308 胃・十二指腸ファイバースコープ」(EF ファイルより以下のレセプト電算コードがあったもの)が行われたものを抽出する。

レセ電算コード	診療行為名称	点数表コード
160093810	E F - 胃・十二指腸	D308

- ② ①の該当した同月の診療開始日に以下の傷病名がついた患者を抽出する。ただし、疑い病名は含む。

【ICD10 コードが入力されている場合】

ICD10	傷病名
K25\$	胃潰瘍
K26\$	十二指腸潰瘍
K279	胃十二指腸潰瘍

【ICD10 コードが入力されていない場合】

・「胃潰瘍」あるいは「十二指腸潰瘍」のテキストを含む

- ③ ②のうちプロトンポンプ阻害薬が投与されたものを抽出する。
 ④ 生年月日と診療月から年齢を求め 16 歳以上を対象とする。
 ⑤ ①～④を全て満たすものを分母とする。
 ⑥ プロトンポンプ阻害薬と以下の抗菌薬 2 種を使用した場合を分母 A とし、これ以外を分母 B とする。

〔分母 A〕

- ・プロトンポンプ阻害薬 + 抗菌薬 2 種 (アモキシリン+クラリス)
- ・プロトンポンプ阻害薬 + 抗菌薬 2 種 (アモキシリン+フラジール)

〔分母 B〕

・分母 A 以外

分子の算出方法

(分母 A、B も、同様の条件で分子を抽出する)

以下の指定期間で、プロトポンプ阻害薬が投与された患者を抽出する。

【指定期間】

- ・ (分母の抽出期間) 平成 22 年 10 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 1 月～3 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 22 年 11 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 2 月～4 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 22 年 12 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 3 月～5 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 23 年 1 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 4 月～6 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 23 年 2 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 5 月～7 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 23 年 3 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 6 月～8 月の診療月
- ・ (分母の抽出期間) 平成 23 年 4 月の診療月 → (分子の抽出期間) 平成 23 年 7 月～9 月の診療月

4. 気管支喘息のコントロール不良率

1) 対象データ	外来 レセプトデータ (RE レコード, SY レコード) 処方, 注射データ	
2) 計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日外来患者	
3) 計測対象	分子	詳細は算出方法参照
	分母	詳細は算出方法参照
4) 薬剤マスタ	気管支拡張薬または気管支喘息薬 (注射かそれ以外か識別可能有り) 吸入ステロイド・β2 刺激薬配合剤 吸入ステロイド	

分母の算出方法

- ① 以下の ICD10 がついた患者を抽出する。

ICD10	傷病名
J45\$	喘息
J46	喘息発作重積状態

または、ICD10 がない (未コード化傷病名) 場合、傷病名に「気管支喘息」の入力があった患者を抽出する。なお、疑い病名であっても含める。

- ② ①の診療月のうち気管支拡張薬または気管支喘息薬が処方された月数をカウントする。
③ ②の診療月数が平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日の期間で 3 ヶ月以上あったものを抽出する。
④ 以下のパターンで分母 A と分母 B を抽出する。

[分母 A]

診療月のうち、全月にわたり、以下のいずれかが処方されたもの

- ・吸入ステロイド・β2 刺激薬配合剤
- ・吸入ステロイド

[分母 B]

- ・分母 A 以外

分子の算出方法

平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日の外来で、気管支拡張薬または気管支喘息薬が注射で処方されたものを分子とする。

5. NSAIDs 投与による有害事象の発生率

1) 対象データ	入院 様式 1 処方, 注射データ 経過表バイタル (体温, 血圧) 経過表 (尿量)	
2) 計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日以降入院かつ 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者	
3) 計測対象	分子	詳細は算出方法参照
	分母	詳細は算出方法参照
4) 薬剤マスタ	非ステロイド性抗炎症薬 (座薬, 内服の識別有り)	

分母の算出方法

- ① 様式 1 の生年月日、入院年月日より入院時の年齢を求め 75 歳以上のものを抽出する。
- ② 入院期間中に経過表バイタルより体温 38 度以上になったものを抽出する。
ただし、42 度以下に該当する体温は入力精度が疑わしいので除外する。
- ③ ②の 38 度以上になった日を取得する。
入院期間中に 38 度以上になった日が複数あった場合は入院日に最も近い日とする。
- ④ 以下のパターンで分母 A1, 分母 A2, 分母 B を抽出する。

〔分母 A1〕

- ・ ③の日に非ステロイド性抗炎症薬が座薬または注射薬であったもの。

〔分母 A2〕

- ・ ③の日に非ステロイド性抗炎症薬が内服薬であったもの。

〔分母 B〕

- ・ ③の日に非ステロイド性抗炎症薬が処方されなかったもの。

分子の算出方法

【分母 A1 あるいは分母 A2 場合】

薬剤が投与された当日または翌日に以下のいずれかに該当したものを分子とする。

A: 収縮期血圧 90 未満

B: 収縮期血圧 100 未満かつ非ステロイド性抗炎症薬投与日の前日～3 日前の血圧の最高値が 140 以上

【分母 B の場合】

38 度以上の発熱日の当日または翌日に以下のいずれかに該当したものを分子とする。

A: 収縮期血圧 90 未満

B: 収縮期血圧 100 未満かつ非ステロイド性抗炎症薬投与日の前日～3 日前の血圧の最高値が 140 以上

*ただし、血圧値で以下のものは除外する。

- ・「-」の符号があるもの
- ・Bp<40、 230<Bp は除外する。

6. 術後呼吸回数の観察実施率

1) 対象データ	入院 様式 1 経過表バイタル（呼吸数）	
2) 計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日以降入院かつ 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者	
3) 計測対象	分子	下記参照
	分母	下記参照

分母の算出方法

様式 1 より以下の手術を行ったものを分母とする。

Kコード	手術名
K739	直腸腫瘍摘出術
K740	直腸切除・切断術
K742	直腸脱手術
K861～K884	（子宮）
K885～K890-2	（子宮付属器）

分子の算出方法

- ① 手術を行った日を取得する。
- ② ①の日の翌日に経過表バイタルより呼吸数が測定されたものを分子とする。

7. 手術当日、術前もしくは術中の抗菌薬の投与率(東京医療なし)

1)対象データ	入院 様式1 看護記録, 麻酔記録, 術中記録(抗菌薬)	
2)計測期間等		
3)計測対象	分子	
	分母	
4)薬剤マスタ	抗菌薬	

分母の算出方法

- ① 様式1の予定緊急入院が「1.予定入院」のものを抽出する。
- ② 様式1より以下の手術を行ったものを分母とする。

Kコード	手術名
K646~K668	(胃, 十二指腸)

※手術を行った日を取得しておく。

分子の算出方法

【岐阜大学での検討事項】

・麻酔記録上、術中記録上に抗菌薬も使用が記載されており、把握できるかどうかを確認

8. 術後 4 日以内の膀胱留置カテーテルの抜去率

1)対象データ	入院 様式1 看護記録(膀胱留置カテーテル抜去)	
2)計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者	
3)計測対象	分子	下記参照
	分母	下記参照

分母の算出方法

・以下の基準を全て満たすものを分母とする。

- ① 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者
- ② 様式 1 の傷病名のいずれかに、「N40 前立腺肥大(症)」が含まれる患者。
- ③ 様式 1 の手術名に「K841 経尿道的前立腺手術」あるいは「K841-2 経尿道的レーザー前立腺切除術」のいずれかが含まれる患者

・上記の①、②の要件を満たし、「K841 経尿道的前立腺手術」あるいは「K841-2 経尿道的レーザー前立腺切除術」のそれぞれを分母とする。

分子の算出方法

・「K841 経尿道的前立腺手術」「K841-2 経尿道的レーザー前立腺切除術」において膀胱留置カテーテルが 3 日以内に抜去された患者をそれぞれ抽出し、分子とする。

9. 術前剃毛の実施率

1)対象データ	入院 様式1 看護記録(剃毛)	
2)計測期間等	平成22年10月1日以降入院かつ 平成22年10月1日～平成23年9月30日退院患者	
3)計測対象	分子	下記参照
	分母	下記参照

分母の算出方法

様式1より以下の手術を行ったものを分母とする。

【胃】

Kコード	手術名
K655 1 2	胃切除術
K657 1 2	胃全摘出術

【大腸】

K719 1 2 3	結腸切除術
K740 1 2 3 4	直腸切除・切断術

※手術を行った日を取得しておく。

分子の算出方法

*看護記録等から「剃毛」あるいは「てい毛」のテキストサーチで把握を試みしてみる。

10. 術前プレメディ投薬(東京医療センターなし)

1)対象データ	入院 様式1, EFファイル 看護記録(マイナートランキライザー)	
2)計測期間等		
3)計測対象	分子	
	分母	
4)薬剤マスタ	マイナートランキライザー	

分母の算出方法

- ① 様式1の予定緊急入院が「1.予定入院」のものを抽出する。
- ② 様式1の手術情報に手術の入力があるものを抽出する。
- ③ ②の手術日を取得する。
- ④ ③の手術日に以下のEFファイルからレセプト電算コードがある患者を分子とする。

レセ電算コード	診療行為名称	点数表コード
150233210	開放点滴式全身麻酔	L007
150233350	ガス麻酔器使用麻酔(10分以上20分未満)	L007
150332510	閉鎖循環式全身麻酔1(麻酔困難な患者)	L0081
150332610	閉鎖循環式全身麻酔1	L0081
150332710	閉鎖循環式全身麻酔2(麻酔困難な患者)	L0082
150332810	閉鎖循環式全身麻酔2	L0082
150332910	閉鎖循環式全身麻酔3(麻酔困難な患者)	L0083
150333010	閉鎖循環式全身麻酔3	L0083
150333110	閉鎖循環式全身麻酔4(麻酔困難な患者)	L0084
150333210	閉鎖循環式全身麻酔4	L0084
150233410	閉鎖循環式全身麻酔5	L0085
150328210	閉鎖循環式全身麻酔5(麻酔困難な患者)	L0085
150250350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔5	L0088
150250450	ノンレブリージングバルブ麻酔5	L0088
150331250	ノンレブリージングバルブ麻酔5(麻酔困難な患者)	L0088
150331350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔5(麻酔困難な患者)	L0088
150339550	気管内チューブ挿入吹送法麻酔1(麻酔困難な患者)	L0088
150339650	ノンレブリージングバルブ麻酔1(麻酔困難な患者)	L0088
150339750	気管内チューブ挿入吹送法麻酔1	L0088
150339850	ノンレブリージングバルブ麻酔1	L0088

150339950	気管内チューブ挿入吹送法麻酔2(麻酔困難な患者)	L0088
150340050	ノンレブリージングバルブ麻酔2(麻酔困難な患者)	L0088
150340150	気管内チューブ挿入吹送法麻酔2	L0088
150340250	ノンレブリージングバルブ麻酔2	L0088
150340350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔3(麻酔困難な患者)	L0088
150340450	ノンレブリージングバルブ麻酔3(麻酔困難な患者)	L0088
150340550	気管内チューブ挿入吹送法麻酔3	L0088
150340650	ノンレブリージングバルブ麻酔3	L0088
150340750	気管内チューブ挿入吹送法麻酔4(麻酔困難な患者)	L0088
150340850	ノンレブリージングバルブ麻酔4(麻酔困難な患者)	L0088
150340950	気管内チューブ挿入吹送法麻酔4	L0088

分子の算出方法

【岐阜大学での検討事項】

・看護システムで、実際に処方された薬剤が以下の条件で、患者に投与されているかどうかを把握できるかどうかをみる。

(条件)

分母で求めた手術日前日の午後7時から当日朝3時まで

・マイナートランキライザー

の記載があるもの

11. 術後安静度解除

1)対象データ	入院 様式1 看護記録(院内フリー)	
2)計測期間等	平成22年10月1日以降入院かつ 平成22年10月1日～平成23年9月30日退院患者	
3)計測対象	分子	下記参照
	分母	下記参照

分母の算出方法

○以下のいずれかの基準を満たすものを分母とする。

・様式1の傷病名のいずれかに「C16\$ 胃の悪性新生物」があり、入院期間中の最初の手術名のいずれかに「K655 1 2 胃切除術」あるいは「K657 1 2 胃全摘出術」のいずれかが記載されている患者

・様式1の傷病名のいずれかに「C18\$ 結腸の悪性新生物」があり、入院期間中の手術名のいずれかに「K719 3 結腸切除術 全切除、亜切除術又は悪性腫瘍手術」のいずれかが記載されている患者

分子の算出方法

術後5日目以降に、「病棟内フリー」、「安静度フリー」、「安静解除」、「歩行OK」等、安静解除が認められた患者を抽出する。テキストの記録から、看護師がレビューすることによって、安静解除日を抽出する。

12. SpO₂低下時における胸部レントゲンによる評価の実施率

1) 対象データ	入院 様式 1 経過表 (SpO ₂)		
2) 計測期間等	平成 22 年 10 月 1 日以降入院かつ 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者		
3) 計測対象	A	分子	分母のうち、術後 7 日以内に経過表 (フローチャート) 上で SpO ₂ が一度でも測定されている患者
		分母	16 歳以上 (入院時年齢) の予定入院で、「K082 人工関節置換術 (1 股)」、「K082 人工関節置換術 (1 膝)」、「K877 子宮全摘術」、「K841 経尿道的前立腺手術」、「K841-2 経尿道的レーザー前立腺切除術」を受けた退院患者
	B	分子	分母のうち、SpO ₂ が 88 以下に低下した当日に胸部 X 線写真撮影が行われている患者数
		分母	16 歳以上 (入院時年齢) の予定入院で、「K082 人工関節置換術 (1 股)」、「K082 人工関節置換術 (1 膝)」、「K877 子宮全摘術」、「K841 経尿道的前立腺手術」、「K841-2 経尿道的レーザー前立腺切除術」を受け、かつ SpO ₂ が 88%以下になった退院患者

分母の算出方法

- ① 様式 1 より入院時年齢を求め、16 歳以上の患者を抽出する。
- ② EF ファイルより以下の手術を行ったものを抽出する。

レセ電算コード	診療行為名称	点数表コード
150050410	人工関節置換術 (股)	K0821
150050510	人工関節置換術 (膝)	K0821
150209110	経尿道的前立腺手術	K841
150217510	子宮全摘術	K877
150276510	経尿道的レーザー前立腺切除術	K841-2

- ③ ②の手術日を取得する。
- ④ ③の手術日から 7 日以内において、経過表の SpO₂ が 88%以下になったもの
※SpO₂ が 88 以下に低下した日を取得しておく。
- ⑤ 以下のパターンで分母 A、分母 B を設定する

[分母 A]

- ・ ①と②に該当するもの。

〔分母 B〕

- ・①～④に該当するもの。

分子の算出方法

以下のパターンで分子 A, 分子 B 抽出する。

〔分子 A〕

- ・手術日から 7 日以内において、経過表の SpO2 が観測されたもの。

〔分子 B〕

- ・SpO2 が 88 以下に低下した当日に「E002 撮影」の「1 単純撮影」が行われたもの (EF ファイルより以下のレセプト電算コードがあったもの) が行われたもの)

レセ電算コード	診療行為名称	点数表コード
170001910	単純撮影 (アナログ撮影)	E0021
170027910	単純撮影 (デジタル撮影)	E0021
170032050	単純撮影 (デジタルと同時撮影) (アナログ撮影)	E0021
170032150	単純撮影 (アナログと同時撮影) (デジタル撮影)	E0021
170002010	特殊撮影 (アナログ撮影)	E0022
170028010	特殊撮影 (デジタル撮影)	E0022

注)

なお、分母から不確かなデータを除外するために、以下の条件に該当する患者は除外する
指標 B : SpO2 が 40%未満 SpO2 が 101%以上 「-」の符号があるもの

13. 心房細動患者の CHADS2 スコアの測定

1)対象データ	入院 様式1 診療録(医師の記録や入院時、退院時サマリー)	
2)計測期間等	■岐阜大学で抽出可能な計測期間 ■東京医療センター(平成 22 年 10 月 1 日以降入院かつ平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日退院患者)	
3)計測対象	分子	CHADS2 スコアが測定された患者
	分母	脳梗塞、急性心筋梗塞、心不全の患者で、かつ「心房細動」が認められる患者

分母の算出方法

- ① 様式1の生年月日、入院年月日より入院時の年齢を求め 50 歳以上のものを抽出する。
- ② ①の患者のうち、様式 1 の傷病名において以下のいずれかのパターンで傷病名が記載されている患者を抽出する。

【傷病名のいずれかに含まれる傷病名パターン】

- a.「脳梗塞(I63\$)」+「I48 心房細動および粗動」で、かつフルテキスト病名で「心房細動」
- b.「急性心筋梗塞(I21\$)」+「I48 心房細動および粗動」で、かつフルテキスト病名で「心房細動」
- c.「心不全(I50\$)」でかつ、付加コードで『急性:30101』あるいは『慢性の急性増悪:30102』『I48 心房細動および粗動』で、かつフルテキスト病名で「心房細動」

分子の算出方法

診療録(医師の記録や入院時、退院時サマリー)にテキストで以下のいずれかの単語が記録されているものを分子とする。

- CHADS2
- chads2
- Chads2
- CHADS 2
- chads 2
- Chads 2
- CHADS-2
- chads-2
- Chads-2

1.高カリウム血症患者における
心電図検査の施行率

施設	分母01	分子01	施行率
A	70	8	11.4%
B	85	17	20.0%
C	164	48	29.3%
D	94	14	14.9%
E	132	34	25.8%
F	253	125	49.4%

2.糖尿病患者における血糖値の改善率

施設	分母02	分子02	改善率
A	42	34	81.0%
B	48	32	66.7%
C	87	56	64.4%
D	39	25	64.1%
E	38	32	84.2%
F	58	48	82.8%

3.ヘリコバクターピロリの除菌療法の効果評価(A)

	分母03A	分子03A	割合
A	1	0	0.0%
B	0	0	-
C	8	1	12.5%
D	5	0	0.0%
F	2	0	0.0%

3.ヘリコバクターピロリの除菌療法の効果評価(B)

施設	分母03B	分子03B	割合
A	68	25	36.8%
B	4	2	50.0%
C	73	19	26.0%
D	67	15	22.4%
F	100	27	27.0%

4.気管支喘息のコントロール不良率

施設	分母04A	分子04A	割合
A	288	0	0.0%
B	0	0	-
C	137	0	0.0%
D	159	0	0.0%
F	514	1	0.2%

4.気管支喘息のコントロール不良率

施設	分母04B	分子04B	割合
A	217	0	0.0%
B	32	4	12.5%
C	162	0	0.0%
D	175	0	0.0%
F	256	1	0.4%

5.NSAIDs投与と有害事象(A1)

施設	分母05A1	分子05A1	割合
A	45	3	6.7 %
B	14	5	35.7 %
C	147	57	38.8 %
D	83	37	44.6 %
F	19	1	5.3 %

5.NSAIDs投与と有害事象(A2)

施設	分母05A2	分子05A2	割合
A	2	0	0.0 %
B	8	3	37.5 %
C	135	43	31.9 %
D	60	21	35.0 %
F	1	0	0.0 %

5.NSAIDs投与と有害事象(B)

施設	分母05B	分子05B	割合
A	497	54	10.9%
B	550	153	27.8 %
C	556	142	25.5 %
D	633	189	29.9 %
F	983	224	22.8 %

6.術後呼吸回数の観察実施率

施設	分母06	分子06	割合
A	277	208	75.1 %
B	391	180	46.0 %
C	335	5	1.5 %
D	104	3	2.9 %
E	247	9	3.6 %
F	494	23	4.7 %

8.術後2日以内の膀胱留置
カテーテルの抜去率

施設	分母	分子	割合
東京医療センター	21	13	62.0%
岐阜大学	23	23	100%

9.術前剃毛の実施率

施設	分母	分子	割合
東京医療センター	132	9	6.8%
岐阜大学	147	0	0%

11.術後安静度解除実施率

施設	分母	分子	割合
東京医療センター	88	3	3.4%
岐阜大学	15	15	100%

12.SPO2低下時における胸部レントゲンによる評価(1)

施設	分母12A	分子	割合
A	112	112	100%
B	142	0	0%
C	237	237	100%
D	146	4	2.7%
E	231	204	88.3%
F	155	53	34.2%

12.SPO2低下時における胸部レントゲンによる評価(2)

施設	分母12B	分子	割合
A	0	0	-
B	0	0	-
C	1	0	0%
D	0	0	-
E	1	0	0%
F	0	0	-

別添：倫理審査委員会提出資料